

STS—92

二〇〇一年一月十五日STS—92 ミッション報告会とレセプションが東京プリンスホテルで開催されました。二〇〇〇年十月十三日若田光一さん他六名のクルーは、国際宇宙ステーションの構成部品の取り付けの為に、スペースシャトル・ディスカバリー号で十三日間の宇宙の旅をされて、無事帰還されました。

STS—92と題された、この度のフライトはスペースシャトル一〇〇回目の飛行にあたります。二〇〇六年完成を予定している「国際宇宙ステーション」は現在三人の宇宙飛行士が滞在して、実験や研究をしています。若田さん達は無人のステーションに行った最後のクルーという事になります。今任んでいる飛行士の為の物資やステーション構成部品の組立を任務とし、見事に果たされ帰還され



たわけです。私は手作りの味噌汁他二品の宇宙食を提供させてもらい、サポートの一員としてこの度ご招待を頂きました。レセプションに先駆けて行われた報告会には四〇〇人ほどの各界の方々に参加され、若田光一さん、ブライアン・ダフイー船長他五人のクルーの紹介と任務の報告がありました。完璧に任務を果たした面々は終始和やかに時にはジョークを交えながら質問に答えられていました。もちろん全部英語です。各人の椅子には同時通訳のイヤホンが置いてありましたので、内容は把握出来ました。

ページ(hoshizawa-s.com)を開かれNASAUDAをリンクされるとその模様が出てきます。映画を見るような光景の中に自分を置いて不思議な感じでした。私も手を上げて質問したいことがありましたが、自己紹介をして質問することに遠慮してしまいましたので、続いて行われたレセプションでただ一人の女性パイロットとして搭乗した、パメラ・アン・メルロイさんに尋ねてみました。「宇宙での体調は予想した通りだったか、食欲や満腹感は地上と同じ物だったか」と・・・もちろん通訳を介してですけど。二日間は食欲はなかった様ですがムーンフェイスと言われ顔がむくんでいる時なのでしょう。その後は普通で嘔み応えは少々違うものの

クッキングキャスター

星澤
幸子

text : Hoshizawa Satiko



飲み込んだ後は同じだそうです。女性としての体調の変化はなく「宇宙は大変ファンタステックだった」と言われました。私は「若田さんの味噌スープを作りました。」とお伝えすると「オーイエス」と理解してくれ、世界的に日本の味噌汁、カレーが好評であることを再確認した思いでした。宇宙と言えども有ります、日本の童話の様に月に兎の絵柄の着物で参加させて頂き、みなさんと写真に収まりました。

若田さんのお母さんとも逢えて「子供の頃から一つの事に夢中になって取り組んでいた」との話もお聞きしました。何にでも関心を持ち熱心になってこそ、極められるのかもしれない。

科学技術センターの所長に決まった毛利守さんとは「これからは人間を科学する時代」というお話を伺い、ほかのクルーの方々とも通訳を通してお話をさせて頂きました。貫禄のある北の湖親方、漫画家の松本零士さんもおいででした。

映画「二〇〇一年宇宙の旅」は三十年以上も前に製作されました、アポロ有人飛行が始まる八ヶ月前だったといえますから、小説家や漫画家は特別のところからエネルギー

ギーをもらって書いているのでしようか、予想も出来ない未来を描いてそれに近い形になっているのですから。映画の中で人は進化し宇宙に長期滞在する様子が描かれています。そして木星探査機の名前が「デイスカバリー」ですからスペースシャトルの名付け親は映画を見て付けたのか・・・。それは偶然なのでしょうか。

実際ロシアとアメリカの企画で一般人が宇宙に行くことになっているとか、宇宙ステーションに二週間滞在する旅費は日本円で二〇億円と言われています。スペースシャトル打ち上げは四五〇億円かかり、帰りに大気圏消滅する運搬船は八〇億円かかるそうです。まさに「二〇〇一年宇宙の旅」が始まるうとしています。国際宇宙ステーションは二〇〇六年完成を目標に日本、アメリカ、カナダなど一五カ国が参加、出資しています。

これからの地球人類の平和な暮らしの為に、様々な研究開発がなされるのだそうです。日本の実験棟「きぼう」も二〇〇四年までに宇宙ステーションに組み立てる予定で、一部本物が筑波に有る宇宙

開発事業団の施設にあり、実験が繰り返しされています。模型の中に入ってみましたが、様々な実験機材が壁一面にコンパクトにまとまり、手つかまりの所は綺麗な黄色だったとして以前の様な殺風景な船内とは違います。宇宙ステーション全体は国際サッカー場ほどの広さに、一階建てのビルの高さ程です。地上四〇〇キロの所に人が住んでいるのです。九〇分で地球を一周し、一等星と同じような明るさで日没と夜明け頃西の空に肉眼でも見ることが出来ます。小さい頃から星空を見ているのが好きで、左から右に動く星があったのを思い出します。その頃から衛星はあったのですね。

レセプションの後、別室で若田光一さんから、デイスカバリー船内で撮った我が宇宙食と若田さんの写真と五食送った味噌汁を四食召し上がったと聞いていましたが、一食は私のお土産として持参してくださいました。NASAで詰めたかえされ熱湯を入れ、ストローをさすようになっていきます。飛んでいかないう壁に貼るためのマジックテープが付いています。大気圏を二度も通過した我が味噌汁は

長い旅をして、手元に帰ってきたことになりました。「これからの長期滞在に日本食の商品開発が必要」と記者会見で話されたと聞きます。ただ栄養を満たすだけの食ではなく、癒しとしての効果も考えて身体が求める日本食の大切さ。地上の我々も同じではないでしょうか。

最後に宇宙で若田さんが歌を詠まれましたものに、返歌をさせてもらいこの度お伝えして参りました。果てしなき 真闇の宇宙に生き生きと 地球の草の 緑輝く
若田 光一氏
星澤 幸子

